

原著論文

体育系教科におけるオリंपイズムの価値に関する教育の日仏比較：
学習指導要領のテキストマイニング分析を通して¹

川上 若 奈（関西外国語大学）²

広瀬 健 一（帝京大学）³

Abstract

The purpose of this study was to clarify the characteristics of education on the values of Olympism in subjects directly related to exercise and sports (physical education subjects). This study focused on two countries: Japan and France. The study conducted a text-mining analysis of the curriculum to compare how the three core values of Olympism (Excellence, Respect, and Friendship) are described in physical education subjects in the two countries.

As a result of this study, the percentage of the key words “Excellence,” “Respect,” and “Friendship” for both countries was examined, with Japan having the highest percentage of a keyword corresponding to “excellence” and France having the highest percentage of a keyword corresponding to “respect”.

The reference to “doing one’s best” was common to both countries regarding “Excellence”. On the other hand, the wording using indicators was characteristically identified in France. Secondly, regarding “Respect”, respect for the rules that have been set, and the reference to respecting the “differences” of others and each individual was common to both countries. On the other hand, in France, the perspective of respect for each individual’s differences leading to the construction of an image of the self was indicated. Finally, regarding “Friendship”, the word with the highest number of occurrences was identified in Japan, and words were changed according to development. On the other hand, in France, the description of acceptance of the roles defined by the rules was confirmed.

From the above, it became clear that France had a different point of view from Japan, based on the comparison of the curriculum between Japan and France. These were (1) the perspective of using indicators to control effort, (2) the perspective of constructing an image of the self, and (3) the perspective of accepting the roles defined by the rules. These points of view will be helpful in the future consideration of physical education practice in Japan.

The findings can be used as a reference when considering the future teaching practice of practical physical education in Japan.

¹ Comparison of Japanese and French education on the values of Olympism in physical education subjects: through a text-mining analysis of the curriculum

² Wakana Kawakami, Kansai Gaidai University

³ Kenichi Hirose, Teikyo University

抄録

本研究の目的は、日本とフランスの2国に着目し、運動やスポーツと直接関係のある教科（体育系教科）におけるオリビズムの価値に関する教育の特質を明らかにするものであった。本研究では、両国の体育系教科においてオリビズムの3つの本質的価値、すなわち卓越性（Excellence）、敬意／尊重（Respect）、友情（Friendship）がどのように扱われているかについて、学習指導要領を対象としてテキストマイニング分析を実施し比較した。

本研究の結果として、両国の「卓越性」、「敬意／尊重」、「友情」のキーワード出現数からそれぞれの割合を求めた結果、日本は、「卓越性」に相当するキーワードの割合が最も高く、フランスにおいては、「敬意／尊重」に相当するキーワードの割合が最も高いことが明らかとなった。「卓越性」に関しては「ベストを尽くす」という態度に言及されていることが両国で共通していた。その一方で、フランスにおいては、指標を使用するという文言が特徴的に確認された。次に、「敬意／尊重」に関しては、決められたルールを尊重することに加え、他の人や一人一人の「違い」を尊重することに言及がある点において両国は共通していた。その一方で、フランスにおいては、一人一人の違いの尊重から自己のイメージの構築につなげるという視点が示されていた。最後に、「友情」に関しては、日本では出現数が最も多い語句が確認され、発達に応じて語句が変更されていた。一方、フランスにおいては、ルールによって規定された役割を受け入れるという内容が確認された。

以上から、学習指導要領の日仏比較によって、フランスは日本とは異なる視点を有していることが明らかとなった。すなわち、(1) 努力に対して指標を用いて制御する視点、(2) 自己のイメージを構築するという視点、(3) ルールによって規定される役割を受け入れる視点、以上の3点であった。これらの視点は、今後の日本における体育実技の授業実践を考える上で、参考可能な知見であると考えられる。

Keywords: Olympic Values Education Program (OVEP) , three core values of Olympism, physical education class, Japan, France

キーワード：オリンピック価値教育，オリビズムの3つの本質的価値，体育授業，日本，フランス

1. はじめに

国際オリンピック委員会（以下：IOC）のオリンピック憲章において、「オリビズムは肉体と意志と精神のすべての資質を高め、バランスよく結合させる生き方の哲学である。オリビズムはスポーツを文化、教育と融合させ、生き方の創造を探求するものである。その生き方は努力する喜び、良い模範であることの教育的価値、社会的な

責任、さらに普遍的で根本的な倫理規範の尊重を基盤とする」¹⁾との記述があり、オリビズムの理念がスポーツに限らない人間の生き方と密接に関係していることが述べられている。加えて、「オリンピック精神を推し進める運動」²⁾であるオリンピック・ムーブメントの普及には、オリンピック・ムーブメントの意義や価値を青少年に理解させることが必要であり、各国においてオリンピック教育が推進されるべきであることが指摘されて

川上若奈・他:体育系教科におけるオリビズムの価値に関する教育の日仏比較:学習指導要領のテキストマイニング分析を通して
いる³⁾。

IOCは、オリンピック価値教育(Olympic Values Education Program: OVEP, 以下: OVEP)という教育プログラムを作成し、オリビズムの3つの本質的価値を「卓越性(Excellence)」、「敬意/尊重(Respect)」、「友情(Friendship)」と定めている⁴⁾。このオリビズムの3つの本質的価値は、それぞれ以下のように説明されている。すなわち、卓越性については、「卓越性とは、スポーツであれ仕事であれ、ベストを尽くすことを意味する。重要なのは勝つことではなく、参加すること、進歩すること、肉体、意志、精神の健全な一体感を得ることである」、敬意/尊重については、「自分自身、自分の体、他者、規則や規定、スポーツ、環境への敬意/尊重が含まれる」、友情については、「友情は、オリンピック・ムーブメントの中心にある。友情はスポーツが個人々の、また世界中の人々の相互理解に役立つことを教えてくれる」とされている⁵⁾。なお、OVEPにおいては、オリビズムの3つの本質的価値に基づき、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「敬意/尊重の実践」、「卓越性の追求」、「身体、意志、精神のバランス」という5つの「教育テーマ」が設定されている⁶⁾。

我が国では、オリンピックとパラリンピックを含めた、オリンピック・パラリンピック・ムーブメントの取り組みとして、オリンピック・パラリンピック教育(以下:オリ・パラ教育)が行われている。オリ・パラ教育は、「オリンピック・パラリンピックそのものについての学び」ならびに「オリンピック・パラリンピックを通じた学び」の2つの学びから構成されているという⁷⁾。前者はオリンピック・パラリンピックに関する知識、選手の体験・エピソード、大会を支える仕組み、オリンピック・パラリンピックの負の部分と改善に向けた取組について学ぶことがあげられている⁸⁾。後者は「オリンピック・パラリンピックを契機としてスポーツの価値(スポーツが個人や社会にもたらす効果)を学ぶことが考えられる」⁹⁾

とされ、具体的には「スポーツまたはスポーツマンシップが、チャレンジや努力を尊ぶ態度、ルールの尊重やフェアプレーの精神、スポーツ・インテグリティの保持、他者の尊重や自己実現、健康増進等にもたらす効果を学び、スポーツをしようとする気運や体を動かすことへの自発的な関心の向上、生涯にわたってスポーツに積極的に参画することにつながる」¹⁰⁾と説明されている。

国内の学校で実施されているオリ・パラ教育に関する報告¹¹⁾¹²⁾¹³⁾を概観すると、オリ・パラ教育の活動内容に関して宮崎¹⁴⁾は、日本の学校現場においては、「外部講師による講習」が最も多く行われていたことを報告している。依田ほか¹⁵⁾はオリ・パラ教育の具体的な取り組みを調査した結果、実施した内容において最も高い値を示したのはオリンピック・パラリンピック選手との交流であったことを報告している。このことから、オリ・パラ教育の活動内容で最も多い実践事例は、オリンピック・パラリンピック選手を講師として招き、公演や交流活動を行うことであることが分かる。一方、岡田ほか¹⁶⁾は、オリ・パラ教育事業においてオリンピック・パラリンピアンをクラスもしくは学校に招いて授業実践を行った際のオリ・パラ教育の課題について報告しており、オリ・パラ教育を継続的に実施する上での課題の一つとして、「予算の確保」を指摘している。この「予算の確保」の課題は、宮崎¹⁷⁾も同様の指摘を行っており、「外部講師を呼んでの講演や体験活動が多いことから、講師の人材育成、費用の確保などの課題がある」と報告している。上記の課題に関連して、東京2020オリンピック・パラリンピック大会(以下:東京2020大会)終了後は、「オリンピック・パラリンピック教育に予算が付くことは見込めない」¹⁸⁾、「東京2020大会の閉幕後には、オリ・パラ教育を主導した組織が縮小、解体され、数年間に渡って充てられていた予算も削減される」¹⁹⁾との指摘がある。事実、青柳・田原²⁰⁾は、2021年12月9日時点で東京2020大会組織委員

会の「東京2020教育プログラム」に関するホームページは閉鎖されていたことを報告している²¹⁾。

このような背景から、青柳・田原²²⁾は、「大会後のオリ・パラ教育の継続的な実施は、学校教育現場に委ねられようとしている」と指摘している。実際、オリ・パラ教育に関する有識者会議の報告²³⁾では、「学校教育は、その直接的な担い手である教員によるところが大きい」との記述があることから、今後オリ・パラ教育を推進していく上で、学校教育における教員は重要な存在であると考えられる。そのため、オリ・パラ教育の継続性を考えていく上で、学校現場の教員が実施可能なオリ・パラ教育の内容について検討を進めていく必要があると言えるだろう。

「予算の確保」が課題であった「外部講師による講習」に対する代案として、「体育理論」の授業におけるオリ・パラ教育の実践があげられる。中学校・高等学校における「体育理論」の授業におけるオリ・パラ教育に関する報告は多数あり²⁴⁾、その中で岡田ほか²⁵⁾は、中学校における「体育理論」の授業実践において「オリンピック競技大会」を活用した学習指導プログラムを作成し、その効果を検証している。その結果、「知識」について、事前から事後にかけて全ての問題において有意に正答率が向上したこと、ならびにアクティブラーニングに基づいた学習方法は、新しい「知識」の習得や理解の深まりの点で効果的であったことを報告している²⁶⁾。また、別の観点として広瀬・川上²⁷⁾は小学校道徳科におけるオリ・パラ教育の可能性について、道徳科教科書の分析を通して検討している。道徳科教科書に掲載されたオリ・パラ教育に関する教材を授業で使用することにより、「実際に選手や元選手から話を聞くことができない学校においても、選手のエピソードや体験などを教材として提供することが可能であること」ならびに「オリンピック・パラリンピックに選手として出場できなかったスポーツ選手の物語や、スポーツ選手ではないが、オリンピック

やパラリンピックにかかわった人物が活躍した物語を授業で取り扱うことは、現状のオリ・パラ教育が抱える外部講師の人材育成、費用の確保などの課題に対する一つのアプローチとなり得る」ことを述べている²⁸⁾。上記のように、体育理論の授業や道徳の授業時にオリ・パラ教育を推進することは、我が国のオリ・パラ教育が直面する課題に対して、一つの解決策を提供する可能性を有していると言えるだろう。

しかしながら、体育理論に関しては「学校現場では『体育理論』の授業が十分に実施されていない」²⁹⁾という問題点があり、道徳科におけるオリンピック・パラリンピックをテーマとした授業の回数には限りがある。そのため、体育授業の中でも実技の授業に着目し、そこで実施可能なオリ・パラ教育の方途を探ることは、現状の課題解決に向けて必要であると考えられる。ナウル³⁰⁾はゲスマンが提唱した体育実技の授業の中で行われるオリンピック教育に関する知見を「オリンピック教育の目標を達成するためには、体育授業の2つの目標が極めて重要であった。それらは運動技能と社会的行動であり、運動技能は『達成』を目指し、社会的技能は『フェアプレー』と『相互尊敬』を目指すものである」³¹⁾と紹介している。この見解を踏まえると、体育実技の授業実践においてオリビズムの3つの本質的価値の涵養を目的とした教育活動を行うことは可能であると考えられる。そのため、オリンピック価値教育の内容が体育実技の授業における実践とどのように関連しているのかについて検討することで、我が国のオリ・パラ教育の充実に資する知見を得ることができると考えられる。

本研究では、このような問題意識に基づき、日本とフランスの、運動やスポーツと直接関係のある教科（以下：体育系教科）に着目する。「オリンピック及びパラリンピックムーブメントは元より競技大会の開催の有無を問わず展開・継続されていくものである」³²⁾という指摘はあるものの、実際には、上記のムーブメントはオリンピック・

パラリンピック競技大会の開催に関わる国において積極的に推進されると言っても過言ではない。事実、日本においては、オリ・パラ教育を推進させるためにオリ・パラ教育に関する有識者会議が開かれ、2016年に『オリンピック・パラリンピック教育の推進に向けて最終報告』³³⁾が提出された。そして、2024年に開催が迫ったパリ2024オリンピック・パラリンピック大会（以下：パリ2024大会）は近代オリンピックの父と称されるクーベルタンの祖国フランスで行われる。フランスにおいても、パリ2024大会の開催に向けて「2024年世代」の手引き（Vademecum “Génération 2024”）が公開されている。この手引きの序文では、「スポーツの実践は、共和国の学校が生徒のために追求する切望に密接に賛同する連帯、尊敬、意志、そして卓越性の価値を実際に伝える。それは、一人ひとりの成熟にとってかけがえのない切り札である。それは健康の増進と市民性教育において主要な役割を果たす」³⁴⁾と述べられている。このようにパリ2024大会の機運が高まっている中で、日本とフランスにおける体育系教科の方針について明らかにした上で、両者を比較・検討すること

により、日本の体育実技の授業実践において参考可能な、新たな視点が浮上すると考えられる。

そこで本研究は、日本とフランスの2国に着目し、体育系教科におけるオリンピズムの価値に関する教育の特質を両国の体育系教科の学習指導要領の比較によって明らかにすることを目的とした。

2. 方法

本研究においては、オリンピズムの3つの本質的価値（卓越性、敬意／尊重、友情）が、日本とフランスの体育系教科においてどのように取り扱われているのかを検討するため、両国の学習指導要領の記述をオリンピズムの3つの本質的価値に照らし合わせることによって分析を行った。その理由として、学習指導要領は国の公的な刊行物であることから、体育系教科の指針を明らかにするための客観的な根拠として、十分な信頼性を有していると考えたからである。本研究における具体的な分析対象と方法は、以下のように設定した。

表1 日本の体育科及び保健体育科の目標と運動種目

		小学校			中学校	
第1目標	内容	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。 (2) 運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 (3) 運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。			体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 (3) 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。	
		〔第1学年及び第2学年〕	〔第3学年及び第4学年〕	〔第5学年及び第6学年〕	〔体育分野 第1学年及び第2学年〕	〔体育分野 第3学年〕
第2各学年の目標及び内容	内容	A 体つくりの運動遊び B 器械・器具を用いた運動遊び C 走・跳の運動遊び D 水遊び E ゲーム F 表現リズム遊び	A 体つくり運動 B 器械運動 C 走・跳の運動 D 水泳運動 E ゲーム F 表現運動 G 保健	A 体つくり運動 B 器械運動 C 陸上運動 D 水泳運動 E ボール運動 F 表現運動 G 保健	A 体つくり運動 B 器械運動 C 陸上競技 D 水泳 E 球技 F 武道 G ダンス H 体育理論	A 体つくり運動 B 器械運動 C 陸上競技 D 水泳 E 球技 F 武道 G ダンス H 体育理論

表2 フランスの体育・スポーツ科の5つのコンピテンシーと4つの学習分野

5つのコンピテンシー	<ul style="list-style-type: none"> ・運動性を発達させ、身体を使って表現することを学ぶ ・身体的、スポーツの実践によって方法やツールを身に付ける ・ルールを共有し、役割と責任を引き受ける ・定期的な身体的活動によって健康を維持することを学ぶ ・身体的な、スポーツの、芸術的な文化を身に付ける
4つの補完的な学習分野	<ul style="list-style-type: none"> ・与えられた期限で測定可能な、最良の成果を生み出す ・様々な環境に動きを適応させる ・芸術的及び/あるいはアクロバティックな演技によって人前で表現する ・集団あるいは個人の対決を先導し制御する

2.1 日仏両国の学習指導要領の構成と分析対象

日本については、小学校学習指導要領³⁵⁾と中学校学習指導要領³⁶⁾、フランスについては、第2, 3, 4学習期の学習指導要領 (Programme du cycle2, 3, 4) を参照した³⁷⁾³⁸⁾³⁹⁾。なお、フランスにおいては、複数の学年で構成される「学習期」が設定されている。本研究においては、日本の義務教育段階に相当する小学校と中学校の年齢に合わせ、第2学習期から第4学習期を検討対象とした⁴⁰⁾。

表1に、学習指導要領における小学校及び中学校の目標と、具体的な運動種目を示した。日本の小学校の体育科及び中学校の保健体育科の学習指導要領は、「第1 目標」、「第2 各学年の目標及び内容」、「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」で構成されている。このうち「第2 各学年の目標及び内容」については、小学校の学習指導要領においては2学年ごとの具体的な6つの運動種目と保健(第1, 2学年を除く)の内容が記載されている。中学校の保健体育科の学習指導要領は体育分野と保健分野に分かれており、第1, 2学年及び第3学年の具体的な7つの運動種目と体育理論ならびに保健の内容が記載されている。

一方、フランスの体育系教科としては「体育・スポーツ科 (Éducation physique et sportive: EPS)」が設定されており、この教科について学習指導要領は学習期共通の前文と⁴¹⁾、学習期別の部分で構成される。共通の部分では、異なる学習期を通して継続的に取り組まれる5つのコンピテンシー (compétences) と、それらのコンピテンシーを発達させるための4つの補完的な学習分野からなる形成行程が示されている。これら5つの

コンピテンシー及び4つの学習分野を表2に示した。学習期別の部分においては、5つのコンピテンシーごとに学習期特有のより詳しいコンピテンシーが示された後に、4つの学習分野ごとに「学習期の終わりに期待されること」、「学習期の間に取り組まれるコンピテンシー」、「生徒のための状況、活動、資源の例」、「進度の目安」が示され、最後に「教科間の交差」として他教科との連携について記されている。

本研究においては、体育分野に限定して両国の学習指導要領における記述を比較するために、日本の学習指導要領から保健分野に関する記述を除いたもの、及び、フランスの学習指導要領から他教科との連携に関する記述を除いたものを分析対象とした⁴²⁾⁴³⁾。

2.2 分析の視点と方法

本研究では、オリンピックの3つの本質的価値(卓越性、敬意/尊重、友情)を分析の視点とし、両国の学習指導要領における記述の比較を行った。

分析手順としては、まず、分析対象として設定した記述をテキストマイニング分析することにより、150位以内の頻出語を抽出した。テキストマイニング分析は体育・スポーツ科学の分野においても、文章・音声・映像などさまざまな質的データを分析するための方法として行われている⁴⁴⁾⁴⁵⁾⁴⁶⁾。テキストマイニング分析は、テキストデータの中からコンピュータによって自動的に言葉を取り出すことが可能である⁴⁷⁾ことから、大量のテキストデータから特定のキーワードを選出することが容易となるため、本研究における分析

方法として採用した。なお、テキストマイニング分析を行う際の、フランス語の学習指導要領を日本語に翻訳する作業に関しては、フランスの学習指導要領の邦訳実績のある研究者1名が行った。次に、それらの語から、オリimpiズムの3つの本質的価値に関わる語（以下：キーワード）をそれぞれ選定した。なお、この選定作業は、教育学を専門とする研究者1名と体育・スポーツ科学を専門とする研究者1名の計2名で実施した。次に、それらのキーワードがどのような文脈で用いられているか分析し、両国の比較考察を行った。なお、本研究においては、テキストマイニング分析のソフトウェアとしてKH Coder (Ver.3. Beta.04a)を用いた。

3. 結果

3.1 頻出語の抽出とキーワードの選定

日本の学習指導要領の総抽出語数は13,437（使用5,440）、異なり語数は804（使用666）であった。フランスの学習指導要領の総抽出語数は6,109（使用2,837）、異なり語数は802（使用678）であった⁴⁸⁾。

表3に、日本の学習指導要領における150位以内の頻出語、表4に、フランスの学習指導要領における150位以内の頻出語を示し、各抽出語がオ

リimpiズムの3つの本質的価値、すなわち「卓越性」、「敬意／尊重」、「友情」に関わると判断した場合にはそれぞれ「卓」、「敬」、「友」の字を左側に記した⁴⁹⁾。

3.2 両国におけるキーワードの割合の比較

両国の「卓越性」、「敬意／尊重」、「友情」のキーワード出現数からそれぞれの割合を求めた（図1）。日本は、「卓越性」に該当するキーワードの割合が最も高く（43%）、次いで「友情」（36%）、「敬意／尊重」（21%）の順位であった。一方のフランスにおいては、「敬意／尊重」に該当するキーワードの割合が最も高く（58%）、次いで「卓越性」（22%）、「友情」（20%）の順位であった。

3.3 キーワードの出現文の抽出

次に、キーワードがどのような文脈で用いられているか検討するために、学習指導要領において、当該キーワードが出現する引用文の一覧を作成した。日本については表5、6、7、8、9に、フランスについては表10に示した。

4. 考察

4.1 3つの価値に基づいた検討

4.1.1 卓越性

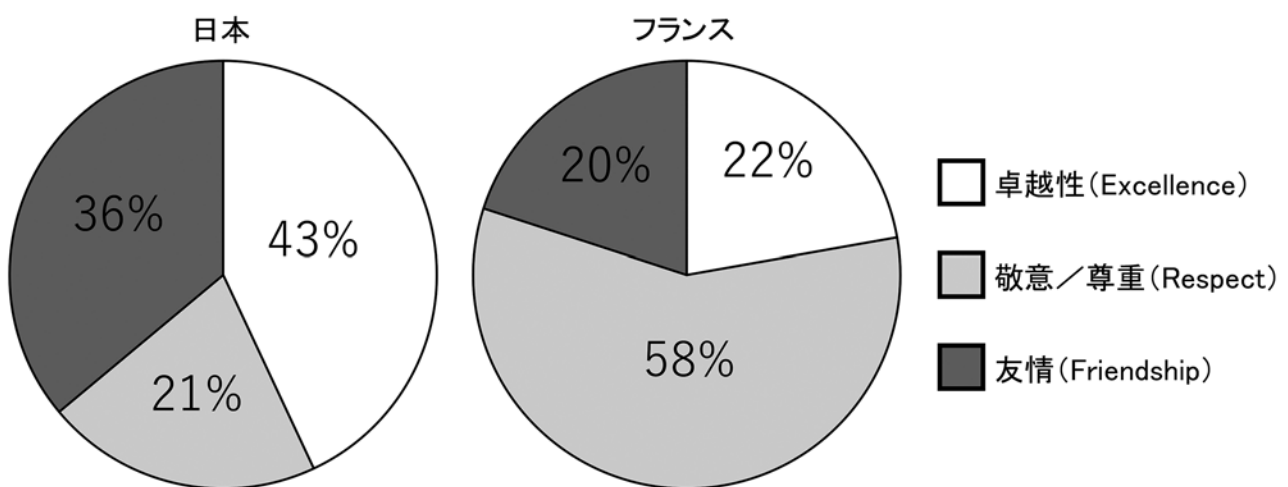


図1 日本ならびにフランスの学習指導要領におけるキーワードの割合

表3 日本の分析対象文書における頻出語上位150語

価値	抽出語	出現回数
	運動	304
	指導	101
	動き	70
	自己	69
	身に付け	63
	応じる	60
	行う	60
	取り組む	59
	体	57
	内容	57
	安全	53
	工夫	53
	課題	52
	健康	52
	技	47
	遊び	46
	学年	45
	基本	45
	伝える	42
	楽しい	41
	事項	40
	解決	38
	考える	37
友	仲間	37
	次	35
	走る	31
	喜び	30
	他者	30
	理解	29
	活動	28
	味わう	28
	スポーツ	26
	向ける	26
敬	守る	26
	行い	25
	体力	25
敬	認める	25
	発見	25
	表現	25
	ゲーム	24
	踊る	24
	水泳	23
卓	積極	23
	体育	23
	ダンス	22
	器械	22
	合理	22
	学習	21
	関連	21
	ボール	20
卓	高める	20
	及ぶ	19
	凶る	19
友	友達	19
	リズム	18

価値	抽出語	出現回数
	攻防	18
	操作	18
	大切	18
	保健	18
	履修	18
	留意	18
	領域	18
	違い	17
	実態	17
	場	17
	触れる	17
	進む	17
	能力	17
	確保	16
	学校	16
	技能	16
	仕方	16
	捉える	16
	養う	16
	考え	15
	跳ぶ	15
	特徴	15
	方法	15
	安定	14
	泳ぐ	14
	知る	14
友	仲よく	14
	分野	14
	滑らか	13
	気を配	13
	勝敗	13
	生活	13
	多様	13
	特性	13
	用具	13
	踊り	13
	バランス	12
	気を付け	12
	児童	12
	手	12
	選択	12
	相手	12
	適す	12
卓	発展	12
	陸上	12
	意義	11
	各種	11
	簡単	11
	見付ける	11
友	助け合う	11
	地域	11
	変化	11
	保持	11
	名称	11
	目標	11

価値	抽出語	出現回数
	回転	10
	計画	10
	呼吸	10
卓	向上	10
	自主	10
	生徒	10
卓	増進	10
	足	10
卓	挑戦	10
	適切	10
	動作	10
	武道	10
	用いる	10
	果たす	9
	球技	9
	競技	9
	効果	9
	思考	9
	示す	9
	乗る	9
	心	9
	組み合わせる	9
	態度	9
卓	目指す	9
	ハードル	8
	加える	8
	関わる	8
	競争	8
	合わせる	8
	取扱い	8
	助走	8
	条件	8
	踏み切る	8
	動く	8
	配当	8
	変える	8
	役割	8
	理論	8
	ルール	7
	易しい	7
	育成	7
	簡易	7
	気付く	7
	技術	7
	互いに	7
友	交流	7
	考慮	7
	作戦	7
	取り扱う	7
	心得	7
	身近	7
	跳	7
	判断	7
	表す	7
	浮く	7
	力	7

表4 フランスの学習指導要領における150位以内の頻出語

価値	抽出語	出現回数	価値	抽出語	出現回数	価値	抽出語	出現回数
	活動	62		受け入れる	9		ダンス	5
	学習	59		身に付け	9		パートナー	5
	身体	48		進度	9		ボール	5
	自分	42		跳ぶ	9		レフリー	5
	生徒	40		投げる	9		関係	5
	状況	30		動き	9		危険	5
	運動	28		発達	9		期限	5
	資源	28		評価	9		技術	5
	スポーツ	27		防御	9	友	協力	5
	集団	26		目安	9		強度	5
敬	尊重	26		指標	8		教育	5
	芸術	24		水泳	8		見せる	5
	様々	24		責任	8		試合	5
	ゲーム	23		測定	8		自身	5
	行動	21		知る	8		実行	5
	ルール	20		的	8		準備	5
	環境	20		適応	8		水	5
	使う	20		方法	8		前	5
	コンピテンシー	19		目的	8		体	5
	他の人	19		ツール	7		体操	5
	参加	18		移動	7		調整	5
	実践	18		維持	7		適合	5
	成果	18		経験	7		導く	5
	個人	17		持つ	7		認識	5
	役割	17		生み出す	7		発見	5
	実現	16		相手	7		オーガナイザー	4
	学ぶ	15		複数	7		コレージュ	4
	取り組む	15		分野	7		遠く	4
	表現	15		陸上	7		果たす	4
	期待	13		オブザーバー	6		学校	4
	計画	13		バランス	6		共有	4
	構築	13		異なる	6		協会	4
	動員	13		獲得	6		原則	4
	アクロバティックな	12		管理	6		高い	4
	安全	12		観察	6		最高	4
	終わる	12		効率	6		使用	4
	単純	12		考慮	6		時間	4
	例	12		合わせる	6		自発	4
	可能	11		最良	6		修得	4
	動作	11		自然	6	友	助ける	4
	必要	11		重要	6		人前	4
	引き受ける	10		勝つ	6		生活	4
	感動	10		新しい	6		先導	4
	制御	10		整備	6		戦略	4
	全て	10		選択	6		創作	4
	走る	10		対戦	6		多く	4
	体育・スポーツ科	10		定期	6		対立	4
	対決	10		分析	6		適用	4
卓	努力	10		文化	6		特性	4
	演技	9		与える	6		特定	4
	競技	9		理解	6		特有	4
	健康	9		オリエンテーリング	5		入れる	4
	攻撃	9		グループ	5		変える	4
	社会	9		ジャッジ	5		変化	4
							利用	4

表5 日本の学習指導要領おけるキーワードとその出現箇所一覧(卓越性) 1/2

価値	キーワード	小中の別	学年段階	引用文
卓越	積極	小学校	5・6	各種の運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に留意したりし、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。また、健康・安全の大切さに気付き、自己の健康の保持増進や回復に進んで取り組む態度を養う。
				運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすること。
				運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすること。
				運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすること。
				運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、水泳運動の心得を守って安全に気を配ったりすること。
				運動に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすること。
		運動に積極的に取り組み、互いのよさを認め合い助け合って踊ったり、場の安全に気を配ったりすること。		
		低学年においては、第1章総則の第2の4の(1)を踏まえ、他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにするとともに、幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。		
		筋道を立てて練習や作戦について話し合うことや、身近な健康の保持増進について話し合うことなど、コミュニケーション能力や論理的な思考力の育成を促すための言語活動を積極的に行うことに留意すること。		
		第2の内容の指導に当たっては、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用し、各領域の特質に応じた学習活動を行うことができるように工夫すること。		
		自然との関わりが深い雪遊び、氷上遊び、スキー、スケート、水辺活動などの指導については、学校や地域の実態に応じて積極的に行うことに留意すること。		
		中学校	1・2	体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体との関係や心身の状態に気付き、仲間と積極的に関わり合うこと。
	体づくり運動に積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようとする、一人一人の違いに応じた動きなどを認めようとする、話合いに参加しようとするなどや、健康・安全に気を配ること。			
	器械運動に積極的に取り組むとともに、よい演技を認めようとする、仲間の学習を援助しようとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、健康・安全に気を配ること。			
	陸上競技に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとする、分担した役割を果たそうとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、健康・安全に気を配ること。			
	水泳に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとする、分担した役割を果たそうとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全に気を配ること。			
	球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとする、作戦などについての話合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配ること。			
	小学校	5・6	次の運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、体を動かす心地よさを味わったり、体の動きを高めたりすること。	
			体の動きを高める運動では、ねらいに応じて、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動をすること。	
			また、(1)については、体の柔らかさ及び巧みな動きを高めることに重点を置いて指導するものとする。	
		低学年においては、第1章総則の第2の4の(1)を踏まえ、他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにするとともに、幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。		
		1・2	次の運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の意義と行い方、体の動きを高める方法などを理解し、目的に適した運動を身に付け、組み合わせること。	
			体の動きを高める運動では、ねらいに応じて、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動を行うとともに、それらを組み合わせること。	
	運動やスポーツは、身体の発達やその機能の維持、体力の向上などの効果や自信の獲得、ストレスの解消などの心理的効果及びルールやマナーについて合意したり、適切な人間関係を築いたりするなどの社会性を高める効果が期待できること。			
中学校	3	次の運動について、技ができる楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、運動観察の方法、体力の高め方などを理解するとともに、自己に適した技で演技すること。		
		次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けること。		
		短距離走・リレーでは、中間走へのつなぎを滑らかにして速く走ることやバトンの受渡して次走者のスピードを十分高めること、長距離走では、自己に適したペースを維持して走ること、ハードル走では、スピードを維持した走りからハードルを低く越すこと。		
	1・2	次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、効率的に泳ぐこと。		
		次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。		
		次の運動について、技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方などを理解するとともに、基本動作や基本となる技を用いて攻防を展開すること。		
3	次の運動について、感じを込めて踊ったり、みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方、交流や発表の仕方、運動観察の方法、体力の高め方などを理解するとともに、イメージを深めた表現や踊りを通じた交流や発表をすること。			
	また、「A体づくり運動」の(1)のイの運動については、第1学年及び第2学年においては、動きを持続する能力を高めるための運動に重点を置いて指導することができるが、調和のとれた体力を高めることに留意すること。			
	その際、指導に当たっては、内容の「B器械運動」から「Gダンス」までの領域については、それぞれの運動の特性に触れるために必要な体力を生徒自ら高めるように留意するものとする。			
高める	小学校	5・6	マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったり、それらを繰り返したり組み合わせたりすること。	
			鉄棒運動では、支持系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったり、それらを繰り返したり組み合わせたりすること。	
			跳び箱運動では、切り直し系や回転系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったりすること。	
		1・2	マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせること。	
			鉄棒運動では、支持系や懸垂系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせること。	
			平均台運動では、体操系やバランス系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせること。	
	中学校	1・2	跳び箱運動では、切り直し系や回転系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと。	
			運動やスポーツは、体を動かしたり健康を維持したりするなどの必要性及び競い合うことや課題を達成することなどの楽しさから生みだされ発展してきたこと。	
			マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技すること。	
		3	鉄棒運動では、支持系や懸垂系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技すること。	
			平均台運動では、体操系やバランス系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技すること。	
			跳び箱運動では、切り直し系や回転系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと。	
発展	小学校	5・6	マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったり、それらを繰り返したり組み合わせたりすること。	
			鉄棒運動では、支持系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったり、それらを繰り返したり組み合わせたりすること。	
			跳び箱運動では、切り直し系や回転系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったりすること。	
	中学校	1・2	マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技すること。	
			鉄棒運動では、支持系や懸垂系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技すること。	
			平均台運動では、体操系やバランス系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技すること。	
3	跳び箱運動では、切り直し系や回転系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと。			

表6 日本の学習指導要領におけるキーワードとその出現箇所一覧(卓越性) 2/2

価値	キーワード	小中の別	学年代階	引用文	
向上	向上	小学校	全体	運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。	
			全体	生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。	
		中学校	1・2	次	次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、陸上競技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な動きや効率のよい動きを身に付けること。
				次	次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、水泳の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、泳法を身に付けること。
			3	運動	運動やスポーツは、身体の発達やその機能の維持、体力の向上などの効果や自信の獲得、ストレスの解消などの心理的効果及びルールやマナーについて合意したり、適切な人間関係を築いたりするなどの社会性を高める効果が期待できること。
				次	次の運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解するとともに、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組むこと。
	全体	実生活に生かす運動の計画では、ねらいに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための運動の計画を立て取り組むこと。			
	全体	次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けること。			
	全体	次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、効率的に泳ぐこと。			
	全体	なお、体力の測定については、計画的に実施し、運動の指導及び体力の向上に活用するようにすること。			
	増進	増進	小学校	全体	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
				3・4	また、健康の大切さに気付き、自己の健康の保持増進に進んで取り組む態度を養う。
5・6				また、健康・安全の大切さに気付き、自己の健康の保持増進や回復に進んで取り組む態度を養う。	
中学校			全体	筋道を立てて練習や作戦について話し合うことや、身近な健康の保持増進について話し合うことなど、コミュニケーション能力や論理的な思考力の育成を促すための言語活動を積極的に行うことに留意すること。	
			3	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
			全体	生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。	
全体	次の運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解するとともに、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組むこと。				
全体	実生活に生かす運動の計画では、ねらいに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための運動の計画を立て取り組むこと。				
全体	言語能力を育成する言語活動を重視し、筋道を立てて練習や作戦について話し合う活動や、個人生活における健康の保持増進や回復について話し合う活動などを通して、コミュニケーション能力や論理的な思考力の育成を促し、自主的な学習活動の充実を図ること。				
挑戦	挑戦	小学校	5・6	自己の能力に適した課題の解決の仕方、競争や記録への挑戦の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。	
			自己の能力に適した課題の解決の仕方や記録への挑戦の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。		
		中学校	1・2	器械運動	器械運動に積極的に取り組むとともに、よい演技を認めようとする、仲間の学習を援助しようとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、健康・安全に気を配ること。
				陸上競技	陸上競技に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとする、分担した役割を果たそうとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、健康・安全に気を配ること。
			3	水泳	水泳に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとする、分担した役割を果たそうとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全に気を配ること。
				武道	武道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとする、分担した役割を果たそうとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ること。
器械運動	器械運動に自主的に取り組むとともに、よい演技を讃えようとする、互いに助け合い教え合おうとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保すること。				
陸上競技	陸上競技に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保すること。				
水泳	水泳に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保すること。				
武道	武道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする、自己の責任を果たそうとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保すること。				
目指す	目指す	小学校	全体	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
			運動	運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。	
			学校	学校や地域の実態を考慮するとともに、個々の児童の運動経験や技能の程度などに応じた指導や児童自らが運動の課題の解決を目指す活動を行えるよう工夫すること。	
		中学校	全体	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
			生涯	生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。	
			1・2	運動	運動やスポーツが多様であることについて、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
運動	運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。				
3	次	次の運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解するとともに、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組むこと。			
文化	文化としてのスポーツの意義について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。				

表7 日本の学習指導要領におけるキーワードとその出現箇所一覧（敬意／尊重）

価値	キーワード	小中の別	学年段階	引用文
敬意／尊重	守る	小学校	1・2	各種の運動遊びに進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、健康・安全に留意したりし、意欲的に運動をする態度を養う。
				運動遊びに進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、場の安全に気を付けたりすること。
				運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすること。
				運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場の安全に気を付けたりすること。
				運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、水遊びの心得を守って安全に気を付けたりすること。
				運動遊びに進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場や用具の安全に気を付けたりすること。
			3・4	各種の運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで努力して運動をする態度を養う。
				運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすること。
				運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすること。
				運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすること。
				運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、水泳運動の心得を守って安全に気を付けたりすること。
				運動に進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすること。
		5・6	各種の運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に留意したりし、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。	
			運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすること。	
			運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすること。	
			運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすること。	
			運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、水泳運動の心得を守って安全に気を配ったりすること。	
			運動に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすること。	
中学校	1・2	短距離走・リレーでは、滑らかな動きで速く走ることやハトンの受渡してタイミングを合わせるなど、長距離走では、ペースを守って走ること、ハードル走では、リズムカルな走りから滑らかにハードルを越すこと。		
		陸上競技に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、健康・安全に気を配ること。		
		水泳に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全に気を配ること。		
		球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとするなど、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとするなど、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配ること。		
		武道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ること。		
		ダンスに積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようとするなど、交流などの話し合いに参加しようとするなど、一人一人の違いに応じた表現や役割を認めようとするなどや、健康・安全に気を配ること。		
敬意／尊重	認める	小学校	3・4	各種の運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで努力して運動をする態度を養う。
				運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすること。
				運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすること。
				運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすること。
				運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、水泳運動の心得を守って安全に気を付けたりすること。
				運動に進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすること。
			5・6	各種の運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に留意したりし、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。
				運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすること。
				運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすること。
				運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすること。
				運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、水泳運動の心得を守って安全に気を配ったりすること。
				運動に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすること。
		中学校	1・2	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、一人一人の違いを認めようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。
				体づくり運動に積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようとするなど、一人一人の違いに応じた動きなどを認めようとするなど、話し合いに参加しようとするなどや、健康・安全に気を配ること。
				器械運動に積極的に取り組むとともに、よい演技を認めようとするなど、仲間の学習を援助しようとするなど、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、健康・安全に気を配ること。
				陸上競技に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、健康・安全に気を配ること。
				水泳に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全に気を配ること。
				球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとするなど、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとするなど、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配ること。

表 8 日本の学習指導要領におけるキーワードとその出現箇所一覧(友情) 1/2

価値	キーワード	小中の別	学年段階	引用文			
友情	仲間	小学校	5・6	自己やグループの運動の課題や身近な健康に関わる課題を見付け、その解決のための方法や活動を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。			
				各種の運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に留意したりし、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。また、健康・安全の大切さに気付き、自己の健康の保持増進や回復に進んで取り組む態度を養う。			
				体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体との関係に気付いたり、仲間と関わり合ったりすること。			
				自己の体の状態や体力に応じて、運動の行い方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。			
				運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすること。			
				自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。			
				運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすること。			
				自己の能力に適した課題の解決の仕方、競争や記録への挑戦の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。			
				運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすること。			
				自己の能力に適した課題の解決の仕方や記録への挑戦の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。			
				運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、水泳運動の心得を守って安全に気を配ったりすること。			
				ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。			
				運動に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすること。			
				自己やグループの課題の解決に向けて、表したい内容や踊りの特徴を捉えた練習や発表・交流の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。			
				仲間	中学校	1・2	運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
	体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体との関係や心身の状態に気付き、仲間と積極的に関わり合うこと。						
	自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。						
	体づくり運動に積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようとする、一人一人の違いに応じた動きなどを認めようとする、話合いに参加しようとするなどや、健康・安全に気を配ること。						
	器械運動に積極的に取り組むとともに、よい演技を認めようとする、仲間の学習を援助しようとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、健康・安全に気を配ること。						
	次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開すること。						
	攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。						
	球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配ること。						
	表現などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。						
	ダンスに積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようとする、交流などの話合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じた表現や役割を認めようとするなどや、健康・安全に気を配ること。						
	仲間	中学校	3				運動についての自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
							体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体は互いに影響し変化することや心身の状態に気付き、仲間と自主的に関わり合うこと。
							自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。
							技などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。
							動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。
				泳法などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。			
友達	小学校	1・2	体をほぐしたり多様な動きをつくり出す遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。				
			器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。				
			走ったり跳んだりする簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。				
		3・4	水の中を移動したり、もぐったり浮いたりする簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。				
			簡単な規則を工夫したり、攻め方を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えること。				
			身近な題材の特徴を捉えて踊ったり、軽快なリズムに乗って踊ったりする簡単な踊り方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。				
			各種の運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで努力して運動をする態度を養う。				
			自己の課題を見付け、その解決のための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。				
			運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすること。				
自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。							
運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすること。							
自己の能力に適した課題を見付け、動きを身に付けるための活動や競争の仕方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。							
運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすること。							
自己の能力に適した課題を見付け、水の中での動きを身に付けるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。							
運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、水泳運動の心得を守って安全に気を付けたりすること。							
規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えること。							
運動に進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすること。							
自己の能力に適した課題を見付け、題材やリズムの特徴を捉えた踊り方や交流の仕方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。							
運動に進んで取り組み、誰とでも仲よく踊ったり、友達の動きや考えを認めたり、場の安全に気を付けたりすること。							

表9 日本の学習指導要領におけるキーワードとその出現箇所一覧（友情）2/2

価値	キーワード	小中の別	学年段階	引用文
友情	仲よく	小学校	1・2	各種の運動遊びに進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、健康・安全に留意したりし、意欲的に運動をする態度を養う。
				運動遊びに進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、場の安全に気を付けたりすること。
				運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすること。
				運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場の安全に気を付けたりすること。
				運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、水遊びの心得を守って安全に気を付けたりすること。
				運動遊びに進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場や用具の安全に気を付けたりすること。
		小学校	3・4	各種の運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで努力して運動をする態度を養う。
				運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすること。
				運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすること。
				運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすること。
				運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、水泳運動の心得を守って安全に気を付けたりすること。
				運動に進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすること。
	助け合う	小学校	5・6	各種の運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に留意したりし、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。また、健康・安全の大切さに気付き、自己の健康の保持増進や回復に進んで取り組む態度を養う。
				運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすること。
				運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすること。
				運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすること。
				運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、水泳運動の心得を守って安全に気を配ったりすること。
				運動に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすること。
		中学校	3	体づくり運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする、話し合いに貢献しようとするなどや、健康・安全を確保すること。
				器械運動に自主的に取り組むとともに、よい演技を讃えようとする、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保すること。
				球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとするなどや、健康・安全を確保すること。
				ダンスに自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、作品や発表などの話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保すること。
				自己の能力に適した課題を見付け、題材やリズムの特徴を捉えた踊り方や交流の仕方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。
				次の運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、表したい感じを表現したり踊りで交流したりすること。
交流	小学校	5・6	自己やグループの課題の解決に向けて、表したい内容や踊りの特徴を捉えた練習や発表・交流の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。	
			次の運動について、感じを込めて踊ったりみんなで踊ったりする楽しさや喜びを味わい、ダンスの特性や由来、表現の仕方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、イメージを捉えた表現や踊りを通じた交流をすること。	
	中学校	1・2	ダンスに積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようとする、交流などの話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じた表現や役割を認めようとするなどや、健康・安全に気を配ること。	
			次の運動について、感じを込めて踊ったり、みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方、交流や発表の仕方、運動観察の方法、体力の高め方などを理解するとともに、イメージを深めた表現や踊りを通じた交流や発表をすること。	
		3	次の運動について、感じを込めて踊ったり、みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方、交流や発表の仕方、運動観察の方法、体力の高め方などを理解するとともに、イメージを深めた表現や踊りを通じた交流や発表をすること。	
			次の運動について、感じを込めて踊ったり、みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方、交流や発表の仕方、運動観察の方法、体力の高め方などを理解するとともに、イメージを深めた表現や踊りを通じた交流や発表をすること。	

表 10 フランスの学習指導要領におけるキーワードとその出現箇所一覧

価値	キーワード	学習期	引用文		
卓越	努力 effort	2	様々な強度の努力を生み出すために資源を最良の方法で動員する。		
			活動の間、空間、時間、持続時間、努力を知覚するために、体の外にある指標を使う。		
		3	より速く、より長く、より高く、より遠くに行くために、異なる集団の中で、努力し、複数の運動を連結させる。		
			実践中は、動きや努力を制御するために外部の指標と自分の体の指標を使う。 出発地点に戻るために努力を管理する。		
		4	身体的努力を特徴づけるための客観的な指標を知り、使用する。		
			少なくとも2つの陸上競技種目および/または少なくとも2つの水泳スタイルで最高の成果を実現するために、努力を管理し、選択する。		
			努力の前にウォームアップをする。		
			進歩し、限界を乗り越えるために努力の準備をし、訓練をする。		
			自分の動きや努力のペースを制御するために外部の指標や物理的な指標を使う。		
		敬意 /尊重	尊重 respect, respecter, respectueux	2	個人や集団での身体的実践を通して、彼らは道徳的、社会的価値（ルールの尊重、自分と他の人の尊重）を手に入れる。
					ルールと規則を練り上げ、尊重し、尊重させる。
					先生に命じられた安全ルールを尊重する。
適用される安全のルールを尊重する。					
必要な安全のルールを尊重する。					
ゲームのルールを尊重しながら、個人的または集団的な対決に参加する。					
ゲームと安全の本質的なルールを尊重する。					
学習期を通して、集団活動の実践は、生徒が自分自身を攻撃者または防御者として認識し、戦略を立て、実際のゲームの中でさまざまな役割や地位を識別して果たし、ルールを尊重するように導かなければならない。					
3	ルールや規則を理解し、尊重し、尊重させる。				
	身体活動やスポーツ活動の環境を理解し、尊重する。				
	活動のルールを尊重する。				
	各環境に適用される安全のルールを知り、尊重する。				
	他の人の演技を尊重し、他の人の前で演じることを受け入れる。				
	パートナー、対戦相手、レフェリーを尊重する。				
4	学習期を通して、集団活動の実践は、生徒が自分自身を攻撃者または防御者として認識し、戦略を立て、実際のゲームの中でさまざまな役割や地位を識別して果たし、ルールを尊重するように導かなければならない。				
	この一環として、体育・スポーツ科は、全ての生徒が、違いを尊重しながら明確な自己イメージを構築するために、自分自身、他の人、環境についての新しい指標を獲得することを助ける。				
	ルールや規則を尊重し、構築し、尊重させる。				
	安全のルールを尊重し、尊重させる。				
	安全のルールと環境を尊重し、尊重させる。				
	パートナーと連帯し、対戦相手やレフェリーを尊重する。				
友情	協力 coopération, coopérer	2	敵対と協力を受け入れる。		
		3	首尾一貫した実践の時間のおかげで、生徒たちはその分野に特化した取り組み方法（行動、模倣、観察、協力など）を試し、発達させる。		
			学習の継続と定着のためには、メインとサブの教師が協力する必要がある。 協力して攻撃と防御を行う。		
		4	協力と対立の活動：ボールを使った集団のゲームやスポーツ（ハンドボール、バスケットボール、サッカー、バレーボール、アルティメット、ラグビーなど）。		
	助ける aider	3	他の人を助ける。		
		4	この一環として、体育・スポーツ科は、全ての生徒が、違いを尊重しながら明確な自己イメージを構築するために、自分自身、他の人、環境についての新しい指標を獲得することを助ける。		
			仲間を助け、様々な社会的役割を引き受ける（コール&ランジャッジ、タイムキーパー、計測ジャッジ、オーガナイザー、リザルトコレクター...）。 一緒に成功するために他の人を保証し助ける。		

日本の学習指導要領において「卓越性」に該当するキーワードの割合は43%であり、他の価値(敬意/尊重, 友情)より高い値を示した(図1)。本研究結果から得られた「卓越性」に該当する具体的なキーワードは、「積極(出現回数23回)」、「高める(出現回数20回)」、「発展(出現回数12回)」、「向上(出現回数10回)」、「増進(出現回数10回)」、「挑戦(出現回数10回)」、「目指す(出現回数9回)」の8つであった(表3)。一方のフランスの学習指導要領における「卓越性」に該当する語句は、「努力(effort, 出現回数10回)」のみであった(表4)。

日本の学習指導要領において「卓越性」該当する語句が出現した具体的な文脈について、表5, 6を参照すると、「積極」は、小学校においては、「運動に積極的に取り組む」という文脈において、中学校においては、具体的な種目が明示された上で「積極的に取り組む」という文脈で用いられていた。「高める」は小学校においては、「体の動きを高める」という文脈において、中学校においては、「体力の高め方」という文脈で用いられていた。「向上」に関して、小学校の「運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う」ならびに、中学校の「生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う」は、「目標」として記載されており、体力の向上が目指されるべきものとされていた。「挑戦」については、小学校は「競争や記録への挑戦」、中学校は「一人一人の違いに応じた課題や挑戦」という文脈で用いられており、これまでの自分自身を超えるためのものという意味合いで用いられていた。加えて、「一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとする」といった、「敬意/尊重」の価値を含んだ内容が記述されている箇所も確認された。「目指す」が使用されている箇所は「健康の保持増進と体力の向上を目指す」という文脈であり、先の「向上」と同じ「目標」として記載されていた。なお、「卓越性」に該当する語句として選定した「増進」に

関しては、「心身の健康の保持増進」という文脈において使用されており、保健教育に関連が深い語句であったと推察される。また、「発展」の語句に関しては、「発展技」という名詞として使用されていた。加えて、「発展」については「運動やスポーツの歴史」に関する文脈で「発展してきた」という使用も確認された。これはテキストマイニングの分析において脱文脈化の過程を経るため⁵⁰⁾、それぞれの語句が文脈から切り離されて選出された結果であると考えられる。

フランスの学習指導要領からは、「卓越性」に関する語句として、「努力(effort)」の一語のみ選出された(表4)。「より速く、より長く、より高く、より遠くに行くために、異なる集団の中で、努力し、複数の運動を連結させる」といった自身のベストを尽くすという意味で用いられていた。一方、「指標(repères, indicateurs)」という表現が主に「与えられた期限で測定可能な、最良の成果を生み出す」という学習分野において用いられていた。その中では、指標を用いて、空間(espace)、時間(temps)、持続時間(durée)、努力(effort)を測り、動きや努力を「知覚」したり、「制御」したりするものとして記載されていた(表10)。

オリ・パラ教育に関する有識者会議の報告においては、「オリンピック・パラリンピックを通じた学び」として、「チャレンジや努力を尊ぶ態度」⁵¹⁾があげられている。また、ナウルによれば、ゲスマンは体育授業におけるオリンピック教育の目標として、運動技能の「達成」を目指すことをあげている⁵²⁾。なお、この教育目標はOVEPの教育テーマである「卓越性の追求」⁵³⁾に相当するものである。本研究における両国の「卓越性」に関する記述から、両国においてプレイ時に「ベストを尽くす」という内容が確認された。また、日本はフランスよりも「卓越性」に該当するキーワードが多いことが明らかとなった。日本における小学校の道徳科教科書のオリンピック・パラリンピックを題材とした教材においては、オリピズムの3つの本質的価値のうちで「卓越性」が最も

多く取り上げられていたことが報告されている⁵⁴⁾。本研究で対象とした範囲は小学校から中学校までであったが、「卓越性」に関わる内容が頻出する傾向は日本における特徴であると考えられる。

一方、フランスにおいては、指標を使用するという文言が確認された。この視点は、フランス独自のものであった。OVEPの教育テーマには、「身体、意志、精神のバランス」が設定されており、このテーマは「学習は頭だけでなく全身で行うものであり、フィジカル・リテラシーおよび運動を通じた学習は、道徳的な学習と知的学習の双方を深める上で役立つ。この考えは、ピエール・ド・クーベルタンがオリンピック競技大会の復活を志した最大の理由だった⁵⁵⁾」と説明されている。フランスにおける指標を使用するという内容は、知的な側面と身体の側面を連合させるという視点を提供するものであると考えられる。

4.1.2 敬意／尊重

日本の学習指導要領において「敬意／尊重」に該当する語句は、「守る（出現回数26回）」、「認める（出現回数25回）」の2つであった（表3）。一方フランスでは、「敬意／尊重」に相当するキーワードの割合が最も高かった（58%）。フランスの学習指導要領における「敬意／尊重」に該当する語句は、「尊重（respect, respecter, respectueux, 出現回数26回）」であった（表4）。

ナウルによれば、ゲスマンにおいては、体育授業におけるオリンピック教育の目標として、上述した運動技能の「達成」を目指すことに加え、「社会的行動」も重要視されており、この「社会的行動」の具体的な目標として、「フェアプレー」と「相互尊敬」があげられている⁵⁶⁾。日本の学習指導要領において「敬意／尊重」に該当する語句が出現した具体的な文脈に関して、表7を参照すると、「守る」べき対象は「きまり」、「順番」、「規則」、「ルール」といった、あらかじめ定められているものや、「約束」、「マナー」、「フェアなプレイ」「伝統的な

行動の仕方」であることが確認された。また、「認める」べき対象は、小学校においては、友達や仲間の考えや動き、取組であった。加えて、小学校第5、6学年においては「互いのよさを認め合い」という文言が確認された。中学校では、「一人一人の違い」や、そのような違いに応じた課題や挑戦、プレイやダンスにおける表現や役割を認める、という他者理解の意図を示す文脈において、「認める」が使用されていた。

フランスの「尊重」という語句の出現数の順位は10位であり、高頻度で出現していた（表4）。表10を参照すると、尊重する対象はレフェリーやルールのほか、「自分と他の人」、「他の人の演技」や「違い」への言及も見られた。「違い」の尊重については、「違いを尊重しながら明確な自己イメージを構築するために」という表現が見られ、一人一人の違いを尊重することから自己イメージの構築にまで発展させる点まで記述されていたことが明らかとなった。

オリ・パラ教育を充実させるために、「社会の課題の発見や解決に向けて他者と協働しつつ主体的に取り組む態度や、多様性の尊重（人間としての共通性、他者への共感、思いやり等）、公德心（マナー、フェアプレー精神、ボランティア精神、おもてなし精神等）の育成・向上を図ることが求められる。こうした力を身につけることは、これからのグローバル化が進み、変化の激しい時代を生き抜いていくために、今後ますます重要になる⁵⁷⁾」との指摘がある。また、ナウルによれば、ゲスマンは体育授業におけるオリンピック教育の目標を達成するための授業方法の基準の一つが、「ルールを守り、相手に敬意を払いながら長期のトレーニングを続けること⁵⁸⁾」であるとしている。本研究における「敬意／尊重」の価値に関して両国を比較すると、決められたルールを尊重することに加え、他の人や一人一人の「違い」を尊重することに言及がある点は共通していた。この2点は「フェアプレー」、「敬意／尊重の実践⁵⁹⁾」というOVEPの教育テーマに相当するものであった。

一方、一人一人の違いの尊重から自己イメージの構築につなげるという視点は、フランス独自のものであることが明らかとなった。先にあげたOVEPの教育テーマ「身体、意志、精神のバランス」の説明においては「フィジカル・リテラシーおよび運動を通じた学習は、道徳的な学習と知的学習の双方を深める上で役立つ」⁶⁰⁾と述べられている。日本では他者を認める段階、つまり他者理解を示す内容に留まっていたが、フランスにおいては、他者理解を踏まえた上で自己イメージを構築するという段階にまで言及する内容が記述されていた。これは、運動やスポーツと言った身体面の経験を通して知的な側面の学びを深める、というOVEPの教育テーマ「身体、意志、精神のバランス」に合致した視点であると考えられる。

4.1.3 友情

日本の学習指導要領において「友情」に該当する語句は、「仲間（出現回数37回）」、「友達（出現回数19回）」、「仲よく（出現回数14回）」、「助け合う（出現回数11回）」、「交流（出現回数7回）」の5つであった（表3）。一方、フランスの学習指導要領において「友情」に該当する語句は、「協力（coopération, coopérer, 出現回数5回）」、「助ける（aider, 出現回数4回）」の2つであった（表4）。

オリンピックの3つの価値における「友情」の説明では、「友情は、オリンピック・ムーブメントの中心にある。友情は、スポーツが個々人の、また世界中の人々の相互理解に役立つことを教えてくれる」⁶¹⁾とあり、「友情」に中心的な価値が置かれている。本研究の結果から、日本の学習指導要領においては、「友達」は小学校第1,2学年、第3,4学年において用いられ、小学校第5,6学年と中学校においては「仲間」の語句が用いられていた。これら二つの語句の出現回数を合わせると56回であり、出現数の順位に換算すると11位となり、キーワードの中で最も高い順位で出現していることが分かる（表3）。表8,9を参照すると、

「友達」や「仲間」は、「敬意／尊重」の価値のキーワードとして選出した「認める」という語句と共に用いられていることが多く、友人を尊重するという態度が表わされていた。また、「仲よく」及び「助け合う」に関しては、小学校第1,2学年、第3,4学年において「誰とでも仲よく運動」をするという文脈で使用されており、小学校第5,6学年と中学校においては「助け合って運動」をするという表現に置き換わっていた。なお、「交流」は、表現運動（小学校）ならびにダンス（中学校）の内容において確認され、踊りを通じた交流や話し合いによる交流に関する文脈においてキーワードが使用されていた。

フランスにおいては、「友情」に相当する「協力」や「助ける」という語句の出現回数は、「卓越性」、「敬意／尊重」のキーワードと比較して下位に位置していた（表10）。表10を参照すると、他の人を助けること、プレイ時に協力して攻撃と防御を行う、といった戦術面の記述が見受けられた。また、「敵対と協力を受け入れる」という記述が確認された。これは、ルールによって規定された役割によって、日常の人間関係が一時的に変化することを受け入れる内容であると推察される。ナウルによれば、ゲスマンは体育授業のなかで行われるオリンピック・スポーツ活動に関する教授法の基準の一つとして、「対戦相手を友人として、パートナーとして認識すること」⁶²⁾をあげている。また、先にあげたようにOVEPの教育テーマには、「身体、意志、精神のバランス」が設定されており、その説明では、「学習は頭だけでなく全身で行うもの」と述べられている⁶³⁾。フランスの学習指導要領における、ルールの理解という知的な側面を通じて対戦相手の存在を受け入れ、それに準じた自身の役割を身体面で遂行する、という視点はオリंपイズムの涵養を図るために示唆的な知見であると考えられる。

「友情」に関して両国を比較すると、日本における「友達」と「仲よく」することから「仲間」と「助け合う」という発達に応じた記載がなされ、

他の人と協力することや、助け合うことの前に「仲よく」行うという段階を踏む視点を示していることは、フランスにはない特徴であると考えられる。一方フランスにおける、ルールによって規定された役割を受け入れるという内容は日本と異なる独自の視点であると言える。

5. 本研究のまとめ

本研究では、日本とフランスの体育系教科におけるオリビズムの価値に関する教育の特質を明らかにするために、両国の体育系教科の学習指導要領の比較を行った。両国の「卓越性」、「敬意／尊重」、「友情」のキーワード出現数からそれぞれの割合を求めた結果、日本は、「卓越性」に相当するキーワードの割合が最も高く、フランスにおいては、「敬意／尊重」の相当するキーワードの割合が最も高いことが明らかとなった。

「卓越性」に関して、両国において「ベストを尽くす」という態度に言及されたものが確認された。一方で、フランスにおいては、指標を使用するという文言が特徴的に確認された。次に、「敬意／尊重」に関して、決められたルールを尊重することに加え、他の人や一人一人の「違い」を尊重することに言及があることは、両国に共通していた。一方で、フランスにおいては、一人一人の違いの尊重から自己のイメージの構築につなげるという視点が示されていた。最後に、「友情」に関して、日本は「仲間」の語句がキーワードの中で最も高い順位で出現しており、「友達」と「仲よく」することから「仲間」と「助け合う」という発達に応じた記載がなされていた。一方、フランスにおいては、「友情」の価値に合致するキーワードの内容において、ルールによって規定された役割を受け入れるという内容が確認された。

以上から、学習指導要領の日仏比較によって、フランスは日本とは異なる視点を有していることが明らかとなった。すなわち、(1) 努力に対して指標を用いて制御する視点、(2) 自己のイメージ

を構築するという視点、(3) ルールによって規定された役割を受け入れる視点、の3点であり、これらの視点すべては、OVEPの教育テーマにおける、「身体、意志、精神のバランス」に関連していると考えられるものであった。これらの視点は、今後の日本における体育実技の授業実践を考える上で、参考可能な知見であると考えられる。今後は、体育系教科に限定せず、学校教育全体における身体的活動の実践にまで拡大し、それらがオリビズムの3つの本質的価値とどのように関連しているのかについて検討を行うことを課題としたい。

注・引用文献

- 1) 国際オリンピック委員会：日本オリンピック委員会訳（2022）オリンピック憲章 Olympic Charter 2021年版・英和対訳（2021年8月8日から有効）. p.9. <https://www.joc.or.jp/olympism/charter/pdf/olympiccharter2021.pdf>（参照日：2023年2月25日）
- 2) 日本オリンピック委員会（2014）JOCの進めるオリンピック・ムーブメント. p.2.
- 3) 真田久（2015）オリンピックムーブメントの推進. 21世紀スポーツ大事典. 大修館書店, pp. 674-677.
- 4) 国際オリンピック委員会：日本オリンピック委員会訳（2017）オリンピック価値教育の基礎. p.17. <https://www.joc.or.jp/olympism/ovep/pdf/ovep2017.pdf>（参照日：2023年2月25日）
- 5) 同上書, p.17.
- 6) 同上書, p.18.
- 7) オリンピック・パラリンピック教育に関する有識者会議（2016）オリンピック・パラリンピック教育の推進に向けて最終報告, p.4. https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/shingi/004_index/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/07/29/1375094_01.pdf（参照日：2023年2月11日）

- 8) 同上書, p.5.
- 9) 同上書, p.5.
- 10) 同上書, p.5.
- 11) 宮崎明世 (2019) 学校におけるオリンピック・パラリンピック教育の展開と評価: 2016・2017年オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業報告書から. 体育学研究, 64: 855-868.
- 12) 岡田悠佑・友添秀則・深見英一郎・吉永武史・根本想 (2018) 日本におけるオリンピック・パラリンピック教育の促進方法に関する研究: オリンピック・パラリンピック教育を実施した教員の視点に着目して. 体育学研究, 63: 871-88.
- 13) 依田充代・清宮孝文・門屋貴久 (2017) オリンピック・パラリンピック教育の現状と課題. オリンピックスポーツ文化研究, 2: pp.31-45.
- 14) 宮崎明世 (2019), 前掲論文, p.860.
- 15) 依田充代・清宮孝文・門屋貴久 (2017), 前掲論文, p.37.
- 16) 岡田悠佑・友添秀則・深見英一郎・吉永武史・根本想 (2018), 前掲論文, p.879.
- 17) 宮崎明世 (2019), 前掲論文, p.864.
- 18) 同上論文, p.864.
- 19) 青柳秀幸・田原淳子 (2022) オリンピック・パラリンピック教育の目的・目標と教育基本法における「教育の目標」の関係. 体育・スポーツ科学研究, 22: p.3.
- 20) 同上論文, p.3.
- 21) なお、筆者らの調べにおいても、現時点 (2023年2月11日) において東京2020大会組織委員会による東京2020教育プログラムのホームページは閉鎖されていた。
- 22) 青柳秀幸・田原淳子 (2022), 前掲論文, p.3.
- 23) オリンピック・パラリンピック教育に関する有識者会議 (2016) 前掲書, p.15.
- 24) 例えば、宮崎明世 (2017) 高等学校の体育理論におけるアンチ・ドーピング授業の検討. 筑波大学体育系紀要, 40: 43-55., 乳井勇二・秋和真澄・岡田悠佑 (2020) 高等学校「体育理論」領域におけるパラリンピックを教材とした授業モデルの効果検証—知識と障害者イメージの変容に着目して—. 日本体育大学スポーツ科学研究, 9: 40-49., 小野田倫大・伊藤雅広・滝沢洋平・松本健太・近藤智靖 (2020) 高等学校の体育理論領域におけるアンチ・ドーピング教育に関する研究. オリンピックスポーツ文化研究, 5: 149-165., 岡田悠佑・乳井勇二・根本想・深見英一郎 (2021) 中学校における「オリンピック競技大会」を活用した「体育理論」の授業実践に関する事例研究——「運動やスポーツの学び方」の内容に着目して——. 東京体育学研究, 13: 1-13. があげられる。
- 25) 岡田悠佑・乳井勇二・根本想・深見英一郎 (2021), 前掲論文.
- 26) 同上論文, p.6.
- 27) 広瀬健一・川上若奈 (2021) 小学校道徳科におけるオリンピック・パラリンピック教育の特質: 道徳教科書の分析を通して. オリンピックスポーツ文化研究, 6: 73-86.
- 28) 同上論文, pp.84-85.
- 29) 岡田悠佑・乳井勇二・根本想・深見英一郎 (2021), 前掲論文, p.1. なお、この指摘は以下3つの報告を根拠として述べられている。佐藤豊・須甲理生 (2016) プロジェクト研究報告 体育理論領域. 体育科教育学研究, 31(1): 72. 笹生心太・中村平 (2016) 高等学校における体育理論授の実態に関する研究. 東京女子体育大学女子体育研究所所報, 10: 31-35. 吉田文久 (2017) 求められる「体育理論」の授業の充実と発展. 体育科教育, 65 (11): 39-41.
- 30) ローラント・ナウル (2016) オリンピック教育. 大修館書店.
- 31) 同上書, p.165.
- 32) 青柳秀幸・田原淳子 (2022), 前掲論文, p.2.
- 33) オリンピック・パラリンピック教育に関する有識者会議 (2016), 前掲書.

- 34) Génération 2024. L' héritage éducatif des Jeux olympiques et paralympiques. À l' usage des personnels de direction et des directrices et directeurs d' école. Vademecum. (n.d.), p.1. <https://eduscol.education.fr/document/3543/download?attachment> (参照日：2023年3月25日)
- 35) 文部科学省 (2017) 小学校学習指導要領 (平成 29 年告示). https://www.mext.go.jp/content/1413522_001.pdf (参照日：2023年2月12日)
- 36) 文部科学省 (2017) 中学校学習指導要領 (平成 29 年告示). https://www.mext.go.jp/content/1413522_002.pdf (参照日：2023年2月12日)
- 37) Ministère de l'Éducation Nationale de la Jeunesse et des Sports. (2020) Programme d'enseignement du cycle des apprentissages fondamentaux (cycle 2) . Bulletin officiel n° 31 du 30 juillet 2020 Annex 1. https://cache.media.education.gouv.fr/file/31/88/5/ensel714_annexe1_1312885.pdf (参照日：2023年2月23日)
- 38) Ministère de l'Éducation Nationale de la Jeunesse et des Sports (2020) Programme d'enseignement du cycle de consolidation (cycle 3) . Bulletin officiel n° 31 du 30 juillet 2020 Annex 2. https://cache.media.education.gouv.fr/file/31/88/7/ensel714_annexe2_1312887.pdf (参照日：2023年2月23日)
- 39) Ministère de l'Éducation Nationale de la Jeunesse et des Sports (2020) Programme d'enseignement du cycle des approfondissements (cycle 4) . Bulletin officiel n° 31 du 30 juillet 2020 Annex 3. https://cache.media.education.gouv.fr/file/31/89/1/ensel714_annexe3_1312891.pdf(参照日：2023年2月23日)
- 40) フランスには留年制度があり，一律ではないものの，小学校 (école élémentaire) は6歳からの5年間，前期中等教育段階のコレージュ (collège) は4年間で構成される．このうち，小学校の前半の3年間で第2学習期，後半の2年間でコレージュの最初の1年間で合わせて第3学習期，コレージュの残りの3年間で第4学習期にあたる．
- 41) 詳細にみると，前文には3つの学習期間で異なる部分がある．具体的には，第4学習期の記述において，第2，第3学習期の記述と異なり，一部名詞に冠詞の付されていない部分 (des méthodes et des outils; des méthodes et outils)，生徒 (élève) という単語が単数形になっている部分があり，また，5つのコンピテンシーと4つの補完的な学習分野の箇条書きの記載の最初の文字が第2，第3学習期では小文字，第4学習期では大文字という違いがある．さらに，「学習指導要領の各学習期(第2，3，4学習期)では，生徒が4つの学習分野に出会うことができなければならない」という文言は第4学習期にはなく，第2，第3学習期のみに記載されている．ただし，内容に大きな影響はないと判断し，ここでは便宜上「学習期共通」と記述した．
- 42) フランスにおいては日本と異なり，健康教育は教科横断的に行われている．吉田成章・赤星まゆみ・山本ベバリーアン・高橋洋行 (2017) EU 諸国等における学校基盤の包括的健康教育カリキュラムの動向．広島大学大学院教育学研究科紀要第三部. 66: 31-40.
- 43) 分析ファイルの作成にあたり，日本の学習指導要領は小学校の記述と中学校の記述という2つの区切り，フランスの学習指導要領は，記述が重複する学習期共通の部分は一度のみ分析ファイルに記載することとし，学習期共通の前文，第2学習期のみの記述，第3学習期のみの記述，第4学習期のみの記述という4つの区切りを作成した．
- 44) 永野翔大・ネメシュ ローランド・藤本元・會田宏 (2017) ハンドボール競技における強豪

- 国と日本の一貫指導プログラムに関する比較研究. コーチング学研究, 30 卷 2 号, 109-123.
- 45) 中山紗織・會田宏 (2019) 日本のハンドボールにおける小学生年代の選手育成活動に関する歴史の変遷：日本ハンドボール協会が発行している機関誌を対象に. ハンドボールリサーチ, 8: 1-19.
- 46) 中山紗織・會田宏 (2021) ドイツのハンドボールにおける育成年代初期の選手育成活動に関する歴史の変遷—ドイツハンドボール協会発行の機関誌 (1988—2018 年) を対象に. 体育学研究, 66: 153-170.
- 47) 樋口耕一 (2014) 社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して—, ナカニシヤ出版, p.1.
- 48) 日本の学習指導要領のテキストマイニング分析の前処理として, 「身に付け」, 「気を付け」, 「気を配」, 「巧技」, 「食育」, 「泳法」, 「協働」について, 強制抽出の設定をし, 項目を分ける細別符合として用いられている「ア」から「キ」までを使用しない語として設定した. フランスの学習指導要領のテキストマイニング分析の前処理として, 教科名である「体育・スポーツ科」に加え, 「アクロバティックな」, 「他の人」, 「身に付け」について, 強制抽出の設定をした.
- 49) 日本の学習指導要領において 11 回出現している「目標」は, 「卓越性」に該当すると考えられるものの, 文書全体の項目名として用いられている言葉であることから, 除外した.
- 50) 永野翔大・ネメシュ ローランド・藤本元・會田宏 (2017), 前掲論文, p.110.
- 51) オリンピック・パラリンピック教育に関する有識者会議 (2016), 前掲書, p.5.
- 52) ローランド・ナウル (2016), 前掲書, p.165.
- 53) 国際オリンピック委員会：日本オリンピック委員会誌 (2017), 前掲書, p.18.
- 54) 広瀬健一・川上若奈 (2021), 前掲論文, p.82.
- 55) 国際オリンピック委員会：日本オリンピック委員会誌 (2017), 前掲書, p.18.
- 56) ローランド・ナウル (2016), 前掲書, p.165.
- 57) オリンピック・パラリンピック教育に関する有識者会議 (2016), 前掲書, p.5.
- 58) ローランド・ナウル (2016), 前掲書, p.165.
- 59) 国際オリンピック委員会：日本オリンピック委員会誌 (2017), 前掲書, p.18.
- 60) 同上書, p.18.
- 61) 同上書, p.17.
- 62) ローランド・ナウル (2016), 前掲書, p.164.
- 63) 国際オリンピック委員会：日本オリンピック委員会誌 (2017), 前掲書, p.18.